

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500149		
法人名	株式会社 鎌田電設		
事業所名	グループホームさざなみ		
所在地	熊本県天草市有明町赤崎1974番地		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」入居者が普段とかわらない生活の継続支援にゆっくり・じっくり・しっかりと取り組み、その人の一瞬一瞬に寄り添っていきます。が理念であります。地域の子供から、お年寄りまで、日々、ホームに立ち寄りやすい環境作りを心がけ、買い物も歩いて行ける距離にスーパーがあり、自然の中で家庭菜園を楽しみ、無農薬野菜で新鮮な野菜。入居者が安心して暮らせる環境作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃から近隣住民が気軽に立ち寄り、入居者や職員とお茶やおしゃべりを楽しみ、自然な雰囲気交流できるような環境づくりを行っている。食事は地元の新鮮な魚やホームの菜園で収穫された野菜を使って、職員手作りの家庭的な料理が提供されている。毎週金曜日は「刺身の日」とし、焼酎を嗜む入居者もいるなど、食事を楽しむ支援がある。各地で起きている自然災害の情報は、いち早く検討課題として取り上げ話し合っており、入居者が安全に安心して暮らせるホーム作りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、朝礼の申し送り時に確認。共有し、年間を通じて現場で取り組んでいる。	理念は「ゆっくり・じっくり・しっかりと」と分かりやすい言葉で表現し、事務所に掲示して職員に周知している。職員会議では、理念に沿って入居者一人ひとりのペースに沿った支援が実践されているかを振り返り、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事に案内し参加していただくと共に、地域の行事に参加している。地域の祭り等に見物に行き地域の人達と交流している。	これまでは、ホームでの敬老会に地域の一人暮らしの高齢者を招待したり、老人会へ出向いたり、祭りの見物等、地域の人々と日常的に交流していたが、今年度は新型コロナウイルス流行のため交流を控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天草市社協の地域見守り協機関の一種として地域の人達の見守りや認知症者の発見通報や支援の方法について協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた意見・要望については職員会議時に報告しサービス向上に努めている。	運営推進会議では、ホームより入居者の状況、主な活動、事故・苦情の状況、職員の異動等について報告が行われている。身体拘束や新型コロナウイルス対策などについての意見交換も行われている。	意見交換の際に、ホームの課題等について具体的なテーマで話し合うことで、より効果的な運営推進会議になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に推進会議に出席して頂き、行政の施設等の説明や運営委員等に助言等指導を受けている。	施設長は、日頃から市の担当者にホームの実情や取組みを伝えるなどして協力関係の基盤をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で勉強等を実施すると共に外部研修に参加し拘束防止に取り組んでいる。	「身体拘束排除マニュアル」「身体拘束等適正化のための指針」を作成し、職員の教育に使用している。「虐待に関する自己チェックリスト」を使用して、具体的な行為について認識を深める取り組みを行っている。また、スピーチロックの勉強会では職員同志で寸劇を演じるなど、拘束に対する意識を深め、全員で拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会に出席した職員を中心に勉強会を実施して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の中で、社会福祉協議会の権利擁護事業の支援委員をしているので、支援者から制度等の勉強会を実施して、制度等について理解の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の方々の意見や要望等、受けやすい環境づくりに努め、施設での出来事について写真入りで状況を報告している。	利用料の支払いは出来るだけ家族に來訪してもらい、利用者との面会はもとより意見や要望を聞く機会としている。意見や要望はノートに記録して職員間で共有し支援に役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の中で、運営に関する意見や要望を聞く場を作っている。	毎月開催する職員会議で、日々のケアの課題について意見交換を行っている。管理者は、職員が意見を言いやすい環境に配慮し、入居者一人ひとりの状況とニーズに沿ったケアとなるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望等は受け入りやすい。環境づくりに努め、休暇希望については希望通り受けて勤務表に反映している。また、職員会議等で要望を聴くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修やブロック会議等、参加させて自己研鑽が出来る環境を与え、資格取得に後押ししている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会が少ない為、交流は必要で他の施設と交流を計画するも実現できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様のその人らしい暮らし、ペース配分を尊重し、合わせることに重点をおき安心して生活出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面会時に本人様の要望、不安などをお伝えし、話し合い後どのようにして行くかを決定している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人様とご家族の情報をとり、どのような暮らしをされたいか、確認を行い、要望に応えられよう職員間で話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶の時間はゆっくりとコミュニケーションを図り、過ごすように心がけている。洗濯物たたみ、布巾干し等、出来ることをして頂くようお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	場合によっては本人様と話し、家族様の状況も考えて話を傾聴し、どうした方が一番良いかを話し合う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、御家族の面会は、部屋にてゆっくり話してもらっている。家に帰宅された場合は、なじみの方と会って来られるように心がけをしている。	入居者の地元のお祭りや、町の行事等に出掛けている。また、行きつけの床屋・美容室には定期的に通い、帰りに家の近くに立ち寄るなどして、懐かしい人や場所との関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話により険悪になる場合は、間に入り、話の内容を聞き、楽しい会話に持って行く。みんなで会話ができよう話題にする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遊びや相談に来られたりした場合、相談に乗ったり、今後も、交流の機会が持てるように、行事などにこられるように案内する。また、死亡された場合は、お悔やみや葬式等に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不安や恐れが多く、落ち着かれない様子が見られる時は、側に寄り添い、傾聴し、会話により落ち着かれる状態を持って行くように心がけている。	お茶の時間に、居室で職員と二人でコーヒーを飲みながらゆったりとした時間を過ごす機会を作り、話しやすい雰囲気の中で利用者の思いを把握するように努めている。意思の表現が困難な利用者には寄り添いながら、家族からの情報などを参考にして利用者の思いを推察し支援に繋げることとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の環境や想いが異なる為、その人を尊重することで、その方に合ったサービスを行うように考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った暮らしが出来るようにアドバイス、支援を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時の希望や今までの暮らし方について要望を聞き、ケアプランに反映している。担当者会議でスタッフより意見を聞いている。	本人の思いや家族の要望、関係者の意見や情報を基に、その人らしい生活が安心してできるように介護計画を作成している。介護計画作成者は介護記録や申し送りノートの情報を把握し、状況に変化が生じた際はその都度計画の見直しを行うことにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	不穏時、気分にもらがある時、バイタルに異常がある時、外出、病院受診等、変化がある時は支援経過表に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・家族様より、状況は異なる為、電話や面会時に情報を交換し、サービスに反映していくように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員やボランティアの利活用等の環境作りに取り組んでいるが思ったような活用が出来ていない。しかし入居者様の御友人に訪問して依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時や薬の依頼は、薬がなくなる数日前に電話連絡している。家族様の希望される病院が、かかりつけ医となっております。緊急時は救急車要請。	本人や家族の希望するかかりつけ医の継続受診を支援している。受診は家族同行を基本としており、ホームでの状況は文書にして情報提供している。必要に応じて職員が同行して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が不在の為、疑問点などある際はかかりつけ医やその病院の看護師に相談という形で実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、グループホームのフェイスシートやその他のその他の情報を提供する。退院時は、その病院のサマリーと今後の注意点を担当医や看護師より受け取り、今後の生活に生かすように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に、かかりつけ医へ連絡を取り、状況報告している。異変時は早目の受診により対応している。重度化や終末期はどうされるか話し合いを行っている。	入居の際、重度化や終末期に向けたホームでの対応については、主治医の指示のもと医療機関への搬送となっていることを説明し、了承を得ての入所としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時に消防署より、高齢者の急変や事故発生時に備え初期対応時の指導を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回。地震・水害の訓練は年1回実施し、入居者様を車に乗せて高台へ避難。	例年、火災訓練は消防署の立会のもと年2回実施しており、地域の方々の協力を得て避難訓練・放水ポンプを使った消火訓練を実施しているが、今年は新型コロナウイルス感染を避けるため、ホームだけの訓練となっている。また、近年各地で起こっている自然災害等の事例をいち早く検討するなど、災害対策に取り組んでいる。	今後、夜間想定での避難訓練も必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議で「プライバシーとは何か」について勉強会を行う。排泄介助や入浴介助はとでも配慮が必要。言葉遣いについては、基本は敬語だが、一人ひとりに合わせた言葉かけ、方言を使ったりしている。	排泄介助・入浴介助の声掛けは声の大きさ・言葉遣いに十分配慮し、誇りやプライバシーを損ねることのない対応に努めている。訪問調査日、入居者と評価員の会話が弾んでいる様子を優しい眼差しで見守る管理者の姿に、入居者を年長者として敬い大切に思う気持ちを感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望があっても、遠慮されて話されない事もある為、日頃からコミュニケーションを図り、会話の中で情報を得るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の体調の変化によって注意しながら、その方のペースでの生活が送れるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	食事後の食べこぼしによる更衣や、入浴時の衣類選び、外出時居室の鏡で洋服を選ばれ、髪を整える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様、それぞれに合った食事形態で彩や食感を工夫している。食事後、利用者様と職員と一緒に片付けや食器洗いを手伝っていただく。	基本メニューは月単位で作成するが、担当者によっては得意料理に変更して腕を振るうこともある。食材はホームの菜園で収穫した野菜や地元の新鮮な魚などを使用して、季節感のある美味しい食事を提供している。毎週金曜日の「刺身の日」には晩酌の焼酎を嗜む入居者もいる。嚥下機能の低下が見られる入居者も出来るだけ食感が味わえるように工夫し、美味しく楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月献立を作成し、栄養バランスの取れた食事提供を心がける。1日の水分量では、摂取量が少ない方は定期的に声かけし好みの飲み物や果物等で脱水予防に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の日課で自ら出来る方は、声かけにて対応。できない方は、職員が口腔内をケアする。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声かけ誘導行い、排泄チェック表に記入している。一人ひとりの身体状況に応じて、ズボンの上げ下げ等、出来ることはして頂き、筋力の低下を防いでいる。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを知り、声掛けや誘導に配慮してトイレでの排泄が出来るように心がけている。職員は本人の気持ちを大切に、見守りながら自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやバナナ等、便通に良い食べ物をメニューに取り入れ提供している。日中、リハビリ体操やボール遊び等のレクリエーションに参加して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースで入浴して頂いている。入浴拒否がある方に対しては、無理にその日に入浴して頂かず、次の日に入浴を勧める等して自尊心を傷つけない様心がけている。	毎日入浴を希望する入居者には、できる限り思いに沿えるようにしている。長湯の好きな人、熱い湯が好きな人、仲の良い人同士二人で入浴したり、個々の思いに沿った支援をしている。又、菖蒲湯・柚子湯など懐かしい季節湯を取り入れ、楽しみの時間となる様に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間1時間毎に巡視している。日中居室で休まれる方も安心して過ごして頂ける様こまめに訪室し様子確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後、薬の変更があった際には、しっかりスタッフ間で申し送りノートにて共有している。誤薬がない様、細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ランチョンマット干したたみや、新聞紙折り、茶碗洗い等、その方の得意なことをして頂いている。気分転換を図る為、天気の良い日には外へ野菜の収穫や散歩に行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと自宅に短時間戻られたり、病院受診後に近くにいらっしゃる旦那様の所に面会に行かれたりと気分転換を図って頂いた。秋祭りを見学され、近所の方との再会で喜ばれていた。	新型コロナウイルスの流行で、例年のような外出支援が難しいため、車の中からお花見を楽しむ外出になっている。また、日常では近隣の散歩や、自家菜園の大根葉の間引き等を行って、外気に触れ、気分転換が図れるような支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は少額のお金を所持されている。管理が出来られない方は家族へその都度依頼。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯をお持ちの方は、自らかけられたり、「電話を希望される時は、子機を使用され居室で話される。長期にわたり面会が出来ない時は、家族様より手紙が届く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窗もあり、換気も充分出来ている。食堂、居間の空間も充分広さがあり、浴室やトイレの移動もスムーズに出来るよう配置が考えられている。	リビングは明るく広いスペースが確保され、清潔で開放感がある。壁に利用者の共同作品のちぎり絵を飾ったり、テーブルや畳コーナーには生花が活かされている。トイレは清掃が行き届いているように見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観られるときは、ゆっくりとしたソファで観られ、食事をする時は食卓の椅子に座るようにメリハリが出来ており、各個人で自由に移動されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、米寿祝いのご家族集合写真を展示されている。音楽を聴かれたり、ラジオを聴かれて入眠される。布団、掛け布団の種類も個人の好みに合わせている。	居室には管理者手作りの心のこもった木製の可愛い壁掛けが飾られたり、入居者が興味のある新聞記事の切り抜きを掲示したり、写真等が飾られている。全体的にシンプルな雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋は個人の動線に合わせた配置になっており、転倒の可能性のある方はセンサーを使用し事故防止に努めている。		